

が私
星界に趣味した起
動機

兵庫縣伊丹小學校 津田 雅之

此頃日没後東天に一群の小星團あり、一圓に光輝を發するものあり。熟視すれば五ツにも見ゆ、六ツ七ツにも見ゆ。毎夜連續して見れば見る程星數が多く見ゆる様になつて來る。最初はたゞ僅かの星數より認める事が出來なかつたが普通の望遠鏡を手にして見たところ實に驚くべし、數個の星と無數の小星が集團してゐることを發見した。これで之の一圓が燦々と輝くわけが分つた。

星圖によつて之れをしらべて見ると牡牛座イ星であることが分つたが、實の處、之の星團は幾何の星の集りであるか、又中で一番よく光つてゐるものは光度三等位のものの様に思はれるがその大き何程のものであるが、地球からの距離何百光年位のものであるかなどの疑問に充されてゐる、何時私に解決の時が來るだらうと楽しみにしてゐる。

私が星界に興味を持つ様になつたのは之の牡牛座エー星の賜である。爛々と輝きつゝある彼れを見た時は何人とも不思議を起し、その正體を知らうとせないものはなからう。私は毎夜彼を觀測するのが楽しみである。かうしてゐる間にその附近の青光を放つもの、赤光を放つものなどが認められて次第に觀測の手を擴げるに至つた。實に彼れは私を星界の趣味に引き入れてくれた恩人であつた。今では此趣味に入つてまだ一ヶ月位あれ共、小熊、カシオペイア、馭車、鷲、琴、白鳥、オリオン、アンドロメダ、ケフェウス、ペガスス、ペルセウスなど諸星座を確認する様になつた。之の頃宵の口には大熊は山かげになつてゐるので北極星はカシオペイアによつて見つけて旅行もした、夜風の寒さも覺えず二時間や三時間は晴夜必らず外に出で星に親しんでゐる。天界第一號は私の數多の疑問を解いてくれた、「天界」は實に私共星界に興味を起したもののための光明である。私は拙文を顧みず星に親しむに至りし動機を茲に告白して之の趣味を益々擴大して天界の研究を進めたいと思ふ。(九、一一、二四、稿)